

ハノイ特別支援教育研修紹介

2017年からハノイ国立教育大学で集中講義を始めたことをきっかけに、2019年から、学生と一緒にハノイ市内にあるサンライズ・インクルーシブセンター（民間の小規模な特別支援学校）を訪問し、授業参観後に、「子供の心の声を聞く」実践について、センターの教員やハノイ国立教育大学の教員と一緒に考える活動を始めました。



ハノイ国立教育大学での講義



サンライズ・インクルーシブセンターでの授業参観

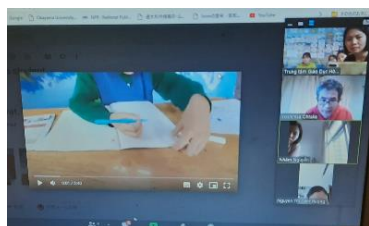
民家を改造して作った部屋に、幅広い年齢の、たくさんの子供が密集した状態で学んでいるということもあり、耳をふさいだり、離席をしたり、声を出したりといった場面を多くみることになります。それでも子供や先生たちからは、混とんとした雰囲気の中、熱気や活気、生命力を感じます。そこには実践における大切な何かがあるような感じがします。

1対1の指導場面では、子供の思いを受け止めつつ、誘ったり受け入れたりする先生たちの懐深い実践に、思わず笑みがこぼれます。「理論を知りたい」「技法を手に入れたい」…サンライズの先生方の強い願いです。その一方で、「でも、それらを超えるものとして、子供の思いを感じ取った時に自分の中から浮かび上がってくる何かを大切にしたい」…これも、サンライズの先生方の強い願いです。そうした姿を学生と共に学びたいと思います。



サンライズ教員宅での食事会。近所の人も参加してくれました。

2020年からは COVID-19 パンデミックにより、サンライ



サンライズ・インクルーシブセンター-ハノイ国立教育大学-岡山大学間オンライン授業検討会

ズ・インクルーシブセンターの訪問ができなくなりました。それでも、オンラインでの授業検討会やメールでの相談会を2~3か月に1回程度の割合で続けています。授業の様子をビデオで見ながら、授業者に解説をしていただき、そこで感じたことを出し合います。授業者は、検討会の中で「あつ、これは」と思ったことをその後の授業で実施し、再び検討会で授業ビデオを示しながら、子供-教師間の育ちについて感じたことを発表します。ズームを通してであったとしても、子供の育ち、自分自身の育ちを感じられた実践を発表する時の教師の嬉しそうな表情が、ハノイと岡山の距離をゼロにする体験、すなわち「そこがここになる」体験をもたらしてくれます。